



◇ 20 ◇

西川伸一氏

パルヴス社会主義論の先駆性

このたび『現代と展望』第一八号に「パルヴス社会主義論の先駆性」なる拙稿を掲載していただき。そして次に舞ひ込んだのが、本欄執筆の依頼である。快諾はしたもの、日々、己の無知を再認識しているのが現状で、問題意識を明言するにははなはだ心もとなく、そこで私の現在の研究テーマであるバルヴス（一八六七—一九一四年）の人となりと彼の持つ問題性に私見を述べることで、表題に代えたいと思う。

特異な生涯

ロシア生まれのドイツ社会民主黨員バルヴスは、その両国をまたにかけて活躍した人物である。九〇年代には党内左派の「暴れん坊」

号に「パルヴス社会主義論の先駆性」なる拙稿を掲載していただき。そして次に舞ひ込んだのが、本欄執筆の依頼である。快諾はしたもの、日々、己の無知を再認識しているのが現状で、問題意識を明言するにははなはだ心もとなく、そこで私の現在の研究テーマであるバルヴス（一八六七—一九一四年）の人となりと彼の持つ問題性に私見を述べることで、表題に代えたいと思う。

として論壇で異彩を放ち、また第

いたのである。」

一次ロシア革命では帰國して、トルツキーとともにペテルブルク・ソヴェトを指導している。しかし彼には「堕落した革命家」というイメージがつきまとつ。ゆえに彼は今日まで、マルクス主義者

だ。「革命の商人」というパルヴ

スの異名はここから発する。革命

にはカネが必要。それゆえ革命家

らすとの確信から、ドイツ政府の

政策を積極的に支持した。さらに

その舞台裏では、政府と結託して

ドイツの資金をボリシェヴィキに

流す仲介役を演じていた。この働きから、ロシア革命の立役者はレーニン、トルツキーの両巨頭ではなく、バルヴスを加えた三巨頭だ

とする論者もいる。革命とは、コ

ストのかかる事業なのだ。

しかしバルヴスが「堕落した革

命家」と呼ばれるのは、大戦を機

とした「転向」や歴史の水面下で

の暗躍のゆえだけではない。それ

は、次のような彼の謎の性格のゆ

えでもあった。トルツキーは「わ

っていたのだろう。そしてそのどち

らにも秀でていたことが、バルヴ

スの生涯に特異な陰影を与えたと

いう気がしてならない。

ところで、この「堕落した革命

家」というレッテルをはがすと、

そこにはいかなるバルヴス像が浮

かび上がってくるのであろうか。

解を示し、彼らに「爆弾のよう

な威力を掌握すべきだとの見

私閑心はこの点にある。そして効果」を及ぼしたのだった。この

これまでのわずかな研究から言え時、バルヴスが示したロシア革命の

イマージがつきまとつ。ゆえに彼

は今日まで、マルクス主義者

だ。「革命の商人」というパルヴ

スの異名はここから発する。革命

にはカネが必要。それゆえ革命家

らすとの確信から、ドイツ政府の

政策を積極的に支持した。さらに

その舞台裏では、政府と結託して

ドイツの資金をボリシェヴィキに

流す仲介役を演じていた。この働きから、ロシア革命の立役者はレーニン、トルツキーの両巨頭ではなく、バルヴスを加えた三巨頭だ

とする論者もいる。革命とは、コ

ストのかかる事業なのだ。

しかしバルヴスが「堕落した革

命家」と呼ばれるのは、大戦を機

とした「転向」や歴史の水面下で

の暗躍のゆえだけではない。それ

は、次のような彼の謎の性格のゆ

えでもあった。トルツキーは「わ

ていたのだろう。そしてそのどち

らにも秀でていたことが、バルヴ

スの生涯に特異な陰影を与えたと

いう気がしてならない。

ところで、この「堕落した革命

家」というレッテルをはがすと、

そこにはいかなるバルヴス像が浮

かび上がってくるのであろうか。

解を示し、彼らに「爆弾のよう

な威力を掌握すべきだとの見

私閑心はこの点にある。そして効果」を及ぼしたのだった。この

これまでのわずかな研究から言え時、バルヴスが示したロシア革命の

イマージがつきまとつ。ゆえに彼

は今日まで、マルクス主義者

だ。「革命の商人」というパルヴ

スの異名はここから発する。革命

にはカネが必要。それゆえ革命家

らすとの確信から、ドイツ政府の

政策を積極的に支持した。さらに

その舞台裏では、政府と結託して

ドイツの資金をボリシェヴィキに

流す仲介役を演じていた。この働きから、ロシア革命の立役者はレーニン、トルツキーの両巨頭ではなく、バルヴスを加えた三巨頭だ

とする論者もいる。革命とは、コ

ストのかかる事業なのだ。

しかしバルヴスが「堕落した革

命家」と呼ばれるのは、大戦を機

とした「転向」や歴史の水面下で

の暗躍のゆえだけではない。それ

は、次のような彼の謎の性格のゆ

えでもあった。トルツキーは「わ

ていたのだろう。そしてそのどち

らにも秀でていたことが、バルヴ

スの生涯に特異な陰影を与えたと

いう気がしてならない。

ところで、この「堕落した革命

家」というレッテルをはがすと、

そこにはいかなるバルヴス像が浮

かび上がってくるのであろうか。

解を示し、彼らに「爆弾のよう

な威力を掌握すべきだとの見

私閑心はこの点にある。そして効果」を及ぼしたのだった。この

これまでのわずかな研究から言え時、バルヴスが示したロシア革命の

イマージがつきまとつ。ゆえに彼

は今日まで、マルクス主義者

だ。「革命の商人」というパルヴ

スの異名はここから発する。革命

にはカネが必要。それゆえ革命家

らすとの確信から、ドイツ政府の

政策を積極的に支持した。さらに

その舞台裏では、政府と結託して

ドイツの資金をボリシェヴィキに

流す仲介役を演じていた。この働きから、ロシア革命の立役者はレーニン、トルツキーの両巨頭ではなく、バルヴスを加えた三巨頭だ

とする論者もいる。革命とは、コ

ストのかかる事業なのだ。

しかしバルヴスが「堕落した革

命家」と呼ばれるのは、大戦を機

とした「転向」や歴史の水面下で

の暗躍のゆえだけではない。それ

は、次のような彼の謎の性格のゆ

えでもあった。トルツキーは「わ

ていたのだろう。そしてそのどち

らにも秀でていたことが、バルヴ

スの生涯に特異な陰影を与えたと

いう気がしてならない。

ところで、この「堕落した革命

家」というレッテルをはがすと、

そこにはいかなるバルヴス像が浮

かび上がってくるのであろうか。

解を示し、彼らに「爆弾のよう

な威力を掌握すべきだとの見

私閑心はこの点にある。そして効果」を及ぼしたのだった。この

これまでのわずかな研究から言え時、バルヴスが示したロシア革命の

イマージがつきまとつ。ゆえに彼

は今日まで、マルクス主義者

だ。「革命の商人」というパルヴ

スの異名はここから発する。革命

にはカネが必要。それゆえ革命家

らすとの確信から、ドイツ政府の

政策を積極的に支持した。さらに

その舞台裏では、政府と結託して

ドイツの資金をボリシェヴィキに

流す仲介役を演じていた。この働きから、ロシア革命の立役者はレーニン、トルツキーの両巨頭ではなく、バルヴスを加えた三巨頭だ

とする論者もいる。革命とは、コ

ストのかかる事業なのだ。

しかしバルヴスが「堕落した革

命家」と呼ばれるのは、大戦を機

とした「転向」や歴史の水面下で

の暗躍のゆえだけではない。それ

は、次のような彼の謎の性格のゆ

えでもあった。トルツキーは「わ

ていたのだろう。そしてそのどち

らにも秀でていたことが、バルヴ

スの生涯に特異な陰影を与えたと

いう気がしてならない。

ところで、この「堕落した革命

家」というレッテルをはがすと、

そこにはいかなるバルヴス像が浮

かび上がってくるのであろうか。

解を示し、彼らに「爆弾のよう

な威力を掌握すべきだとの見

私閑心はこの点にある。そして効果」を及ぼしたのだった。この

これまでのわずかな研究から言え時、バルヴスが示したロシア革命の

イマージがつきまとつ。ゆえに彼

は今日まで、マルクス主義者

だ。「革命の商人」というパルヴ

スの異名はここから発する。革命

にはカネが必要。それゆえ革命家

らすとの確信から、ドイツ政府の

政策を積極的に支持した。さらに

その舞台裏では、政府と結託して

ドイツの資金をボリシェヴィキに

流す仲介役を演じていた。この働きから、ロシア革命の立役者はレーニン、トルツキーの両巨頭ではなく、バルヴスを加えた三巨頭だ

とする論者もいる。革命とは、コ

ストのかかる事業なのだ。

しかしバルヴスが「堕落した革

命家」と呼ばれるのは、大戦を機

とした「転向」や歴史の水面下で

の暗躍のゆえだけではない。それ

は、次のような彼の謎の性格のゆ

えでもあった。トルツキーは「わ

ていたのだろう。そしてそのどち

らにも秀でていたことが、バルヴ

スの生涯に特異な陰影を与えたと

いう気がしてならない。

ところで、この「堕落した革命

家」というレッテルをはがすと、

そこにはいかなるバルヴス像が浮

かび上がってくるのであろうか。

解を示し、彼らに「爆弾のよう

な威力を掌握すべきだとの見

私閑心はこの点にある。そして効果」を及ぼしたのだった。この

これまでのわずかな研究から言え時、バルヴスが示したロシア革命の

イマージがつきまとつ。ゆえに彼

は今日まで、マルクス主義者

だ。「革命の商人」というパルヴ

スの異名はここから発する。革命

にはカネが必要。それゆえ革命家

らすとの確信から、ドイツ政府の

政策を積極的に支持した。さらに

その舞台裏では、政府と結託して

ドイツの資金をボリシェヴィキに

流す仲介役を演じていた。この働きから、ロシア革命の立役者はレーニン、トルツキーの両巨頭ではなく、バルヴスを加えた三巨頭だ

とする論者もいる。革命とは、コ

ストのかかる事業なのだ。

しかしバルヴスが「堕落した革

命家」と呼ばれるのは、大戦を機

とした「転向」や歴史の水面下で

の暗躍のゆえだけではない。それ

は、次のような彼の謎の性格のゆ

えでもあった。トルツキーは「わ

ていたのだろう。そしてそのどち

らにも秀でていたことが、バルヴ

スの生涯に特異な陰影を与えたと

いう気がしてならない。

ところで、この「堕落した革命

家」というレッテルをはがすと、

そこにはいかなるバルヴス像が浮

かび上がってくるのであろうか。

解を示し、彼らに「爆弾のよう

な威力を掌握すべきだとの見

私閑心はこの点にある。そして効果」を及ぼしたのだった。この

これまでのわずかな研究から言え時、バルヴスが示したロシア革命の

イマージがつきまとつ。ゆえに彼

は今日まで、マルクス主義者

だ。「革命の商人」というパルヴ

スの異名はここから発する。革命

にはカネが必要。それゆえ革命家

らすとの確信から、ドイツ政府の

政策を積極的に支持した。さらに

その舞台裏では、政府と結託して

ドイツの資金をボリシェヴィキに

流す仲介役を演じていた。この働きから、ロシア革命の立役者はレーニン、トルツキーの両巨頭ではなく、バルヴスを加えた三巨頭だ

とする論者もいる。革命とは、コ

ストのかかる事業なのだ。

しかしバルヴスが「堕落した革

命家」と呼ばれるのは、大戦を機

とした「転向」や歴史の水面下で

の暗躍のゆえだけではない。それ

は、次のような彼の謎の性格のゆ

えでもあった。トルツキーは「わ

ていたのだろう。そしてそのどち

らにも秀でていたことが、バルヴ

スの生涯に特異な陰影を与えたと

いう気がしてならない。

ところで、この「堕落した革命

家」というレッテルをはがすと、

そこにはいかなるバルヴス像が浮

かび上がってくるのであろうか。

解を示し、彼らに「爆弾のよう

な威力を掌握すべきだとの見

私閑心はこの点にある。そして効果」を及ぼしたのだった。この

これまでのわずかな研究から言え時、バルヴスが示したロシア革命の

イマージがつきまとつ。ゆえに彼

は今日まで、マルクス主義者

だ。「革命の商人」というパルヴ

スの異名はここから発する。革命

にはカネが必要。それゆえ革命家

らすとの確信から、ドイツ政府の

政策を積極的に支持した。さらに

その舞台裏では、政府と結託して

ドイツの資金をボリシェヴィキに

流す仲介役を演じていた。この働きから、ロシア革命の立役者はレーニン、トルツキーの両巨頭ではなく、バルヴスを加えた三巨頭だ

とする論者もいる。革命とは、コ

④稿書き
87.1.25 出稿

私の問題意識

西川伸一

このたび『現代と展望』第二号に、ハーバード社会主義論の先駆性なる拙稿を掲載していただいた。序文を書き改めた以外はほぼ旧作の転載であったが、はじめ他の流試合とあって、少々胸の高ぶる思いがした。そして次に舞込んだのが、本欄執筆の依頼である。快諾はしたもののは日々、己の無知を再確認してくるのが現で、問題意識を明言するにはははだ心もとない。そこでの現在は、研究テーマであるハーバードの一八六七（一九二四年）の人となく、と彼の持つ問題性に私見を述べる。

17×18

ロシア生まれのドイツ社会民主

14

党員ハレグスは、その両国をまたにかけて活躍した人物である。九十年代には党内左派の“暴れん坊”として論壇で異彩を放ち、また第一次ロシア革命では帰国して、トロツキーとともにペテルブルク・ソヴェトを指導している。しかし彼には“墮落した革命家”というイメージがつきまとふ。ゆえに彼は今日まで、マックス主義思想史の片隅にその名をとどめているにすぎないのだ。それはなぜか。

第一次大戦勃発を境に、ハルクスは“わかる”社会愛国主義者に転じてゆく。すなわち彼は、イツの勝利がロシアに革命をもたらすとの確信から、ドイツ政府の

政策を積極的に支持した。さらには

14

その舞台裏では、政府と結託して
ドイツの資金をボリシェヴィキに
流す仲介役を演じていたのである。

ニの働きから、ロシア革命の立役者
者はレーニン、トロツキーの西臣
頭ではなく、ハルヴスを加えた三
巨頭だとする論者もいる。革命とは、
コストのかかる事業なのだ。
しかしハルヴスが“墮落した革
命家”と呼ばれるのは、大戦を機
とした「転向」や歴史の水面下で
の暗躍のやえだけではない。それ
は、次のような彼の謎の性格のゆ
えどもあつた。トロツキーは曰わ
が生涯の中でこう述懐してゐる。
「この革命家は、まったくおも
いもかけぬ観念に夢中になつて

た。すなはち金持ちになることである。…彼はそゝ國家と、社会革命につれて抱く夢と結びつけていたのである。

この描寫にもあるように、ルヴァスは常にカン戦争や第一次大戦に乘じて、軍需物資、穀物等の販賣金としてロシア革命につき込んだのである。「革命の商人」というハーヴィスの異名はここから發する。革命には力が要る。それゆえ革命家はもうしく資本家になるべきだ。彼はこう明快に割り切っていったのだ。開き直りとも解せる。この視点は、次の言葉にも伺える。

「社会主義運動の中には、大金持ちや大商人が少なからず存在し

て いる。サン・シモンは軍需品の
調達の一財産を築いたのだし、
リエは商人であった。オーウェ
ンは工場主であつたし、エンゲル
スも同じく工場主であり、かなり
の大資本家であった。もし彼の資
金がなければ、マルクスはとても
惨めな状態にあつたことだろう。
バルヴスはユダヤ人である。一方
ではマルクスを筆頭に錚々たる
革命家群を生み、他方ではロスチ
ヤイルドらの大財閥を生んだユダ
ヤの血が、バルヴスの中に混在し
ていたのだろう。そしてそのうち
にも秀でていたことが、バルヴ
スの生涯に特異な陰影を与えたと
いう気にしてならない。

ところで、この「墮落した革命」といふで、

家" と "レッテル" をはがすと
 そこにはいかなる "ルヴス像" が浮
 かび上がってくるのである。そして
 私の関心はこの点にある。そこ
 これまでのわざかな研究から言え
 ることは、彼は革命理論家として
 一流の資質を備えていたとい
 うことだ。ちなみにその例として、
 前掲拙稿の内容を要約しておこう。
 一九〇六年、ドイツに戻ったル
 ヴスは、革命の教訓を踏まえ、
 たて続けに力作を発表する。その
 中で彼は、二十世紀資本主義を位
 置づけるにあたって、"組織され
 た資本主義" に近い認識を示し、
 それから革命戦略も、敗北した第
 一次革命のような "機動戦" では
 なく、持久力を要する "陣地戦"

に改めなければならぬと主張したのである。さらに彼は、革命後
の社会についても視野に収めていた。すなわち、生産手段の国有化
による社会主義国家の肥大化を察知し、それに対抗するためには、都
市自治体や多様な組織・集団など
の独立した権力核が、國家権力を包囲すべきだと訴えた。ハルグス
は革命後の社会像として、国家には
人民がからめとられな立脚点を多く備えた、多元的な柔構造をな
す社会を描いていたのである。
それだけではない。「血の日曜
日」の直後には、フレハーノフの
「非連続的二段階革命論」に固執
していった^{当時の}シアヌマルクス主義者
に対する、ロレタリアートこそ

権力を掌握すべきだと見解を示し、彼らに“爆弾のような効果”²⁰を及ぼしたのだつた。この時ハーリングスが示したロシア革命の戦略「労働者民主主義論」は、トロツキーの「永続革命論」の先駆をなすものである。遡って一八九〇年代の農業綱領論争、修正主義論争等の党内論争にあつては、左派の急先鋒として健筆をふるつてゐる。また、「転向」後も、『グロッケン』なる機關誌を創刊し、グローバルな政治経済論、社会主義党の官僚化問題、技術・エネルギー論、大衆社会・文化論などで、卓見を披瀝したとされる。

社会主義を説くにあつては、マルクス、レーニンの威光があま

りにまばやく、そのまぶしさゆえに彼らの周囲にはいた同志たちの思想や行動には、少數派や異端があればなおのこと、目を伏せがちである。しかし、スリクス、レーニンを縷々引用して自説の正当化をはかる議論は、ペレストロイカの今日、あまり生産的とは言えないとしろ、この両者にどうかれずには多く、清々の革命家たちを見据える粘り強い党みこそ、社会主義といふ思想大系をより豊かなものとして、ひいては、実現すべき社会主義社会を確立化した体制にならための、フェイル・セーフを提供するのではなかろうか。これが現在の「私の問題意識」と敢えて言えば、言えそなこだわりである。